

古賀清掃工場のリサイクルプラザでは、金属混合物(不燃物)の破碎処理を行っていますが、処理後の残渣である可燃物を溜める場所（バンカ）で、令和2年10月13日と12月9日に火災が発生しました。

原因については、破碎した金属混合物に含まれていたリチウムイオン電池に衝撃を与えたため発火したものと考えられ、12月9日の消火後には、下の写真の様に焦げた状態の電池が発見されました。



充電式の電化製品には、電池を取り出せない(分解できない)ものも含め、リチウムイオン電池の普及率は年々上昇してきています。

これに伴ない廃棄物としての排出される頻度が増えてくることが予想され、今後も同じような火災の発生も想定されるため、工場も色々な対策を施す必要が出てきています。

加えて、工場としては、今後の廃棄物の分別について見直しを図る必要があると考えており、住民の皆様のご協力も不可欠とはなりますが、市町の環境担当課と協議をしていきます。